

## 常任委員会視察報告

総務委員会、産業建設委員会、教育民生委員会合同の行政視察ですが、本年は総務委員会の主催により、去る11月12日に町と包括提携を結んでいる千葉工業大学東京スカイツリーキャンパスの見学や東京都荒川区の幸福度を行政施策の企画・立案に生かした取り組みを視察しました。

午前は、千葉工業大学スカイツリーキャンパスを見学し、NASAやJAXAと提携した宇宙活動に必要とされる先端的な科学技術や福島第一原子力発電所内で稼働したロボットのモデル等を見学し、大学としての使命（教育・研究・社会貢献）への理解度を深めました。



▲千葉工業大学スカイツリーキャンパス見学

午後からは荒川区役所に到着し、研修室前で職員の皆様に拍手で手厚い歓迎を頂き、荒川区副区長、議長、副議長から挨拶を頂いた後、研修では自治総合研究所副所長 檀上様に住民幸福度の考え方、またそれを高める為の行政との連携や施策の展開方法等を丁寧でわかりやすい説明をして頂きました。

荒川区では、全国に先駆けて幸福度を取り入れた行政施策の企画・立案を行っています。住民の何を幸せと感じるかを荒川区民総幸福度（GAH：Gross Arakawa Happiness 荒川区独自の幸福度を測る指標：幸福実感度、健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心）として数値化することにより、住民が不安に思っていること、十分ではないと感じていること（＝幸福ではないと感じていること）を調査・研究し、施策に反映させることで、誰もが幸せを実感できるまち「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指すものです。



▲荒川区役所にて幸せリーグの説明を受けました

また、幸福度を行政に生かそうとする活動は、荒川区に止まらず、今や全国に広がっています。住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合、通称「幸せリーグ」では、住民の幸福を追求するという共通の使命のもと、全国から志を同じとする自治体が集まり、お互いに学び合い、誰もが幸福を実感できる社会を築いていくために活動して

います。

日本は豊かな国だと言われていました。これまで、その国が豊かであるかどうかは、主に経済的に豊かであるかどうかで考えられてきました。しかし、経済的に豊かであっても、人々が幸せだと感じられなかったら、本当に豊かな国だとは言えないかもしれません。国の豊かさを国民がどれだけ幸福だと感じているかという「幸福度」で測ろうという考え方は、近年世界中で注目されてきており、荒川区の研究はその先駆的存在となっています。

荒川区は、古くからの歴史や下町風情を随所に残しつつ、各地域の新しいまちづくりも進んだ、懐かしさと新しさが混ざり合った、人と人とのふれあいを大切にしている街だそうです。

今回の視察では、区長、議会、職員一人ひとりが住民の目線に立ち、問題を把握・解決しようとする真摯な姿勢と、“幸福実感都市”という目標を実現しようとする熱意が感じられました。この先進的な取り組みを議会活動に生かすとともに行政と連携し、今後「幸せリーグ」への参加も視野に執行部と検討し、住民がより幸せに暮らせるまちづくりを目指していきます。

特に印象に残った事は、職員 3 名をわざわざ幸せの国ブータンへ行かせ、研修をさせてきたということ。今、時代は **Output** (結果) から **outcome** (成果) へということ。もう一点は、研究テーマごとに頭脳 (専門家) を集め、そしてその方たちと接する事が大事だということ。御宿町議会でも常々、執行部へ提案していることです。大変学ぶことの多い視察になりました。

今回の視察にあたり、荒川区副区長 佐藤様、議長 斎藤様、副議長 保坂様、議会事務局の皆様、自治総合研究所副所長 檀上様、千葉工業大学職員の皆様、御宿町議会事務局のお二人には大変お世話になりました。お礼を申し上げて報告といたします。

総務委員会委員長 滝口一浩